

会 議 結 果 の お 知 ら せ

1 開催した会議の名称

平成27年度第3回佐伯市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進審議会

2 開催日時

平成27年9月24日(水) 13時30分から15時45分まで

3 開催場所

佐伯市役所 本庁舎 5階 庁議室(佐伯市中村南町1番1号)

4 出席者

- (1) 委員:(会長)御手洗吉徳、(副会長)出水薫、笹田哲史、清家修、太田博士、
西條隆洋、脇田文明、柳井康彦、脇坂浩、佐藤美穂、江川俊彦、久下律、
白石哲也、丸山純一、児玉芳江、疋田秀美、岩尾美穂、渡邊由佳

委員 28名中 18名出席

- (2) 市職員等:総合政策部長 久保田与治郎

(事務局:秘書政策課) 課長 武田晴美、政策推進係 総括主幹 金田隆、
岩切亮佑

計4名

5 公開、非公開の別

公開

6 傍聴人数

0人

7 議題及び結果

(1) 議題

ア 今後の推進審議会開催(案)について

イ 佐伯市まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要(案)について

(2) 結果

総合戦略のたたき台について、委員から意見を頂く形をとった。今回、出された意見を事務局が検討することで終了した。

8 審議の内容

会長が議長となり、議事を進行した。資料について、事務局が説明をした後、意見交換を行った。

(質疑応答)

委員 総合戦略は作り直す事を前提にしているので、最終的にたどりつくのは3月で良いという開き直り方もあります。とすると、10月の段階で作られるものは、そこに倒れ込む様な状態で走り続ける前提で作って良いのではないかということをお前提としたいんですけども。

目標は3つ。自然増を目指すという路線、社会増を目指すという路線、減少をする、その減少にどう対応するか、3つの目標があります。その3つの目標について佐伯市は全ての地域が同じ様に取り組みする必要は無いし、同じ様には取り組めないと思う。なぜかと言えば、例えば自然増を目指すといった時に、既に子育て世代やこれから子育て世代になろうとする様な世代がない地域に自然増を期待したりするのは意味がありません。そこではむしろ減少に対応する・社会増を目指すという事しか基本目標になりえないという事。要するに3つの目標に対して学校区単位で、どの目標が1位でどの目標が2位でどの目標が3位か、という様な順位づけをする必要があると思います。今、事務局の説明で総花的である事が問題だという話だったが、結果として総花的にならざるを得ないのが、佐伯市の宿命ではないか。つまりこれだけ広域的な地域を対象としているので、結果としては総花的になる。けれども羅列されているものは、この学校区ではこれが第1順位の目標である…という違いによって明らかに総花的ではないという状態に出来ると思いますので、私は最終的に出てくるものが全体として総花的に見えても、むしろ開き直るといえるか、きちんと説明できればそれは問題ない。自然増・社会増・減少対応この3つに対して、この校区は何が第一順位なのかという事を決める事が一番重要だろうという風に思います。

その上で、3月に向けて何をすべきかという話になると思うんですけども、KPIの設定についての観点を確認したい。お願いしたい事があって、KPIというものをわざわざ政府が持ち出して、実際にこれへの対応を求めているのは、PDCAサイクルを真面目に動かせという話。つまりそれは、測定可能である・実効性がある、平たく言ってしまうとその目標を、どう実現しようかと考えれば何をすればいいかが湧いてくる様な目標の立て方をしようという話なんです。その目標を設定し、その目標に向けて、ではこれをこれだけ増やす為には何をすればいいかがいくつか要因を思いつく。そしてそのいくつか要因を思いついたものを更に具体的に実行する為にどうすればいいか議論が出来る様な、そういうタイプの目標設定をKPIは求めているはずなんです。

それは今の段階では恐らくなかなか難しいんじゃないか。例えば一例を挙げると、基本目標の個別目標の1は合計特殊出生率を目標にしていますが、私は合計特殊出生率が何らかの政策の結果、上昇した因果関係が設定出来る事業を知りません。

要するに何か実際、政府がこれを行ったから合計特殊出生率が上がったという因果関係を設定出来る事業を知らないのです、これは今申し上げた様な観点から言ってKPIには相応しくない。繰り返しますが、こういう目標を立てると、こういう事をしないとイケないだろうという事が予想がついて、こういう事をしな

いといけない事に更に具体的な施策を改められる様なK P I でなければいけないんじゃないかと。

しかもP D C Aサイクルを真面目に回そうと思えば、そのK P I を測定する為に多大なコストがかかったり、10年に1回位しか測定できない様なK P I では意味がないんじゃないのかという様に思います。

そういった意味では、どうやってまともなK P I を設定するのかといった時に、私は佐伯市における事例分析というか、例えばU J I ターン、実際にUターンをした人たちに、どこにいてどういう背景をもってUターンをしたのか、これはUとJ I を分けるべきだという観点から今説明していますが、J I についてもJ I をした人が、どこにいてどんな人がどういう環境のJ I をしたのか、という事をまず調べなければ、佐伯市においてUが可能になる条件やJ I が可能になる条件が分からないんじゃないかと。

実際起きている、皆無じゃないんです、UもJ I も。

UとJ I の起きている事例を分析する事によってでしか、「佐伯市を興すとすればこういう条件が整った時だ」というモデルを作ることは出来ない。

そのモデルを作った上で初めてそのモデルを引き起こす為には、こんなK P I を立てるのがベストじゃないのか。これは自然増についても社会増についても減少対応についても、減少が起きていて子育て世代がいない所で、辛うじて減少率が留まっている事例がここなんだと。それは何故なのかという事例分析から、こういう要因があるからこういう要因を人為的に生み出せば良いんじゃないかというモデル作りが出来て、そしてK P I の切り出しになります。ですから自然増を目指す、社会増を目指す、減少に対応するの3大目標について、佐伯市内に存在する事例を分析しないことには始まらないんじゃないかと。

すでに行われた事の中で、職員の皆さんによるヒヤリング聞き取りが行われていますが、聞き取り調査の既存の各職員やセクションが関係を持つる団体に漫然と聞きにいても、結局従来の仕事の延長線上での情報しか得られないんじゃないかと思うんですけれども、私はむしろ聞きとり調査をする貴重な忙しい職員の皆さんが聞き取り調査に時間を割くのであれば、今申し上げたように、いかにしてモデルをつくるかという事例分析のための聞き取りをするべきではないのかという風に思います。

これは全部3月に向けてのお願いでしたので、質問ではありません。

あえて質問に変えるとすると、要するに聞き取り調査はどのようなスタンスで行ったか、またK P I の今の所の策定方針はどのような方針なのかという事をお尋ねしたいと思います。

事務局 まず始めにK P I についてです。K P I については現時点では…正直なところをお話の方が実がありますので正直お話しすると、苦しんでいるというのが現状です。分野によっては、この数値が適切だろうというものもあります。

他方でなかなか数値が設定出来ない、つまりどういう状態になれば、今自分たちが漠然と行おうとしている事が達成できたと言えるのか、という事が整理出来

ていない分野もあります。そういった中で目標を設定しておりますので、文言と因果関係を見出せない目標が設定されている部分があります。

また情勢的なお話で恐縮なんですけれども、大分県の方が是非一緒になって取り組みましょうとお声かけいただいている分野、そちらのK P Iについても市の戦略の方に盛り込んでいくとなると、どういった整合性を取ろうかという所で苦慮しているという側面もあります。ただ、そちらはどちらかという小さなお話でして、大きくは市の方でまだまだK P Iについての生みだす議論が足りていない、また現状についての把握が足りていない事による要因だと思っております。

それに関連しますけれども、2つ目の聞き取りについてです。

こちらについても聞き取り調査を行ってはおりますが、現状の業務と完全に切り離れた所で聞き取り調査を行っているというものではありません。

ただ聞き取りの中での項目については、移住に関する設問を共通して入れるという所だけはありますけれども、具体的に聞き取りの方法また聞き取りの結果を整理する様式、これらについて通常、学問の世界で行われる様な社会調査の方法に則って行ってもおりませんし、それに準じる様な検討がなされているわけではないというのが現状で、まずは地域の方と一番近い立場である市役所の職員が話を聞きに、遅ればせではあるかも分かりせんけれども行きましょう、という所からのスタートで行っている次第です。以上です。

委員 率直な回答を頂いてありがとうございます。私も偉そうに質問していますが、私自身に確定的な回答があるわけではありません。というのも恐らく今回、全国の自治体に取り組んでいる事は、真面目に取り組もうとすれば恐らく未知の領域というか、初めてに近い事をやらないといけなくなるという様な所があるんじゃないかと思えます。

佐伯市も真面目にやろうとするという方向で動いているという前提ですので、K P Iは既存の統計指標である必要は無いと思うんです。つまりK P Iを作るということ自体が重要な作業ではある。すでに統計指標上あるとか他の自治体に通用しているとかじゃなくて、佐伯市にとってこのK P IがまさにK P Iとして有効です、というものを作るという様な観点を持たなければならない、既存統計指標だけを寄せ集めれば達成できる様なものではないんだという観点が常に職員の皆さんにはあった方が良くないかという風に思います。

もう一つ、例えばK P Iを一緒に調べるとか一緒に作るという事が、誰と一緒にかという住民の皆さんです。それが結果として総合戦略を促進・推進していく為に必要なことではないかと思えます。

この審議会の場合には2つの種類の方がおられると思うんです。

私は佐伯市に住んでいるわけでもありませんし、佐伯市で恐らく人生を終える様な事にならないと思うんです。そういう立場の方と、恐らく佐伯市で一生を終えるつもり、ないしはそうせざるを得ない方々に分かれると思うんですが、当然のことながら後者の方々が本気にならなければ佐伯市が存続可能・持続可能であることはあり得ないと思えます。

恐らくこの審議会で、もう既にそういう立場の方々の中にはもともと危機意識をお持ちの方もおられると思うんですが、意識がより具体的にリアルに考えられるようになるという変化はこの審議会でも起きてるのではないかと私は期待していますし、そうあるべきだと思っていますが、そういった効果が調査であるとか施策を作るだとかいう事において、引き起こせれば一石二鳥三鳥になるわけです。

だから例えば事務局さんが学術的な調査に到達していない、それは忙しい、そしてマンパワー・予算が限られている、職員の皆さんが職員だけでやろうとするという事がそもそも間違いだろうし、そうではなくて例えば実例を挙げると県内の大学であるとか、そういった高等教育機関と地元の高校生と住民と職員の皆さんで何かを調べるという事をやってみてはどうかと。そういう事自体が単純にKPIを作る為の機械的な作業でなくて、それ自体がまちづくりそのものですし、意識を改革する・改善する様なきっかけになるんじゃないかと思うんです。

ですからPDCAサイクルを回して動かすという事になっていますから、目標を適宜組み変える必要があるでしょうし、KPIもより妥当なものに改善していくという前提で作る。3月に一度完成版を一旦作るにしても、その後PDCAサイクルの中でそういったものを書き換えていく事も出来ますし、書き換えていく事自体をまちづくりに置き換えていく様な方法論というか観点を職員の皆さんが持てるようになるという事が、一番持続可能な総合戦略の推進体制を作っていく事になるんじゃないだろうかといい様な気持ちでいます。

委員 まさにその通りだと思います。地元の地域振興審議会でもこのこと同じ様に、たたき台として提案されたものが、KPIこれは何だと、散々ここで私が言ったんですけど地域に帰ると言われる立場で聞きました。

その時に私は、これは全部無視して何が地域にあれば人口が増えるかを皆さん思った所を言って下さいと、そういう観点で良いですから何でも言って下さいと言うと、いろんな案が出ました。私もこれを進めていく上で、石破創生大臣が言った様にPDCAサイクルを使うのであれば、まずPのプランの部分は仮説で良いと思うんですよね。

これを一生懸命このプランを良い物を作ろうとする所に力を注ぎすぎてから、今酩酊状態に入ってると思うんで、簡単な仮説を市の執行部が作ってそこで検証して繰り返していけば、どんどん良いものが出来ていくと思うんで、弥生で聞いた話ですけど、市瀬旧町長が弥生の一万人人口計画というのがあったらしくて、それを職員の方に聞いたのでそれを目指しましょうと。

その中で万人になるにはどうしたら良いかと考えた時に、さっき言われた様に今若者は東京に移り住んでいます、ですが弥生は佐伯市で考えれば人口が増えています。大きい所で考えずに小さい身近な所で考えれば弥生は人口が増えています。ではなぜ弥生は人口が増えるかをひも解けば自然と答えが出るんじゃないかと思うんです。

蒲江は人口減っています。ではなぜ蒲江の人口が減ったかというのと、多くの若い人に聞くと高校で一人の子どもを高校に通学させる事は出来るけど、二人にな

ると佐伯に移り住んだ方が家計が楽だからそれを機会に佐伯に住む、その一つ一つの場面をさっき先生が言われた様に挙げていくと、なぜ人が移るかというのが分かってくると思うんです。

東京に若者が移るのを考えるんじゃなくて、なぜ本匠の人が弥生に移り住んだか、その身近なレベルで考えていけば、良いアイデアはどんどん出てくると思うんで、それを仮説としてPDCAサイクルに乗っけていけば良いと思うんです。

それを本気でやっているのは多分、豊後高田市じゃないかと思うんです。まちなかに若者定住の土地を造成して、そこに移り住んでくれたら高校までは通学圏内で行けるとか、豊後高田の次の施策、バツイチ子持ちの人が再婚して住んでくれたら祝い金を出すとか、さっきも言われたんですけど今までに経験したことの無い事を行政がやろうとするのは、すごい大変なことだと思うんですけども、そこは政治家も使って一致団結して、ある意味政治家がドンと仮説を立ててくれたら一番簡単だと思うんですけども、そこら辺を前例主義を取っ払って佐伯がこういう風にまちづくりやって人口が増えたよ、という所までいけば全国に対してもすごいアピールポイントにもなると思うので、この前も石破大臣が言ってたんですけど、沖ノ島の海士町はエリートの方が創業するのに住んで、人口が増えてきたというんですけども、なぜエリートの人たちが自分が創業する時に海士町を選んだかといったら、海士町のまちづくりの取組が面白いからというのも一つの理由になってるんです。

だから佐伯市もまちづくりの取組が面白いと評価されたら、そこに感化して来る人はいると思うので、身近な所でなぜ宇目の人が弥生に住むか、直川の人が弥生に住むか佐伯に住むかという所を掘り下げていけば良いんじゃないかと思います。

会 長 他にはございませんでしょうか。

委 員 このスケジュールで市が積極的にいろんな所に聞き取り調査をしてるというのを前々から伺っていて、委員の話を聞いて、そういう風な噛み砕いた分かりやすい話をしてるということであれば、同じ弥生なら弥生地域でこういう風にしたら良いんじゃないという様な、いろんな活きた意見が聞かれてるんだろうという事でとても希望が持てるなと思いました。

ただ、たくさんいろんな所でいろんな意見を聞いてると思うんですが、それをその戦略にどうやって盛り込んでいくかというのは、どこでどういう風にして吸い上げるんだろうという疑問があって、今回こういう風な形でいただいたので、これに対して意見を具体的に言いやすいんですけど、市の方がそれを聞いて「これ、すごく良い意見だ」というのを自分の所で消化して、自分の部分をここにしっかり乗せるというシステムになっていけば良いんですけども、例えばこの審議会にしても前はJAさんの方からイチゴの集出荷の話だったり、私の方からも堅田インターにアウトレット作ったらどうでしょうか、そういうアイデア的な所は幾つも言ってると思うんですけども、それが実際これにどう乗るのか

乗らないのかとか、その辺の判断というのがどうなるのかが見えない、どう整理していくのだろうかというのが分からない所です。

戦略の中身について入らせていただきたいんですが、今日の審議会のメンバーの方にもいる佐伯のツーリズム重点戦略は農協さん・漁協さん・商工3団体さん、観光協会さんで市の観光課と県の8団体が一緒になって、こういう風にやっけていましょうという風に作っているものなので、それを取り入れていただいとるというのはとてもありがたいなという風に思っています。

その内容が10ページにあるんですけども、これを見てあれ？と思ったんですが、街・浦・里の魅力を活かした観光ツーリズムの振興という事で、確かにこれで良いと思うのですが、佐伯の特色として東九州自動車道が今年の3月にオープンして佐伯の管内というのは高速道が無料区間なので、その辺にすごく特徴があるんです。だからそういった所の無料区間であることを活かした観光の促進という事を今回ツーリズム重点戦略のメインに挙げていて、そのプログラムはいくつかあるんですけど、おもてなしとか情報発信というのはこの中の一つにすぎないと言ったらあれなんですけど、少なくともおもてなしがこんなに一番最初に出てくるのではなかったよなと思っています。

例えば佐伯の造船業みたいなのか、宇目の自然を活かした着地型ツアーを着実にやっていって、皆さんに自然を知ってもらいましょうとか、もちろん情報発信は大事なのでそういった事を並べているので、この辺は観光課サイドにもう一度見直してほしいな、という風に思っています。

あと佐伯の特徴的な所としては里エリアという事で今、祖母傾ユネスコエコパークを2年後認定を目指して申請しようという動きがあります。宮崎と含めて6市町村でやってるんですけども、東九州自動車道が開通して宇目とか里エリア、今20%車が減みたいない感じで停滞してるので、そういった所の里の魅力、藤河内溪谷であったり山岳だったり入ってみるととても魅力的な、人はたくさん受け入れられないけれども、皆がリピーターとなってくれる様な、そういう魅力ある地域があるので、そういう自然体験づくりとかをやっけていこうよ、みたいな動きもやっている所ですので、そういった特徴的な所とかを是非入れていただきたいなと思っていますし、佐伯のイベントの特徴としてあちこちでやってるというのがあって、それはそれで活気があって良いんですけども、そこでイベントをやっけるのに周りのお土産屋さんが何も知らなくて、挽茶饅頭が無いとかそういう状況が結構あったりするんで、その辺の繋がりとかがキチンとすれば繋がって活性化がいくのになという風に思っています。

だからそういった所も観光の分野では入れていただきたいなと思いますし、あまべ商工会さんの要望の中にもありましたけど外国人技能実習生云々という事で、米水津地域さんとかたくさん外国人の方入ってらっしゃると思いますけれども、その空き家についても例えば空いてる市営住宅だったりとか教職員住宅だったりとか、お試し定住だったりとかそういういろんなメニューもしていましようという様なのを、どこが入れる入れないという意思決定もあろうかと思うんですけども、そういうのもあればより具体的で良いなという風に思っています。

あとはイチゴとかキクとか特徴ある所をどんな形で盛り上げていくのかというのを、もうちょっと具体的な施策として挙げていった方が分かりやすいかなとも思います。

あと細かい事ですけども、7ページの出産・子育ての希望をかなえるという所であれば個別目標の1で、安心して産み育てるの「うむ」が出産の「産」になってるんですけど、子どもを育てていくというスタンスで見れば「生きる」とかの「生む」の方がより広い意味になるかなと思いますし、施策の所の子育ても仕事もしやすい環境づくり、これは病児病後児保育とかの所になるんでしょうけれども、働いてということであれば企業側の受け入れ体制だったりとか、子ども自身の将来のライフプランニングみたいな所もあります。

個別目標2の所は前回もどなたかが言われてたと思うんですけども、地域全体で子育てを支える環境づくりとなっているのに、取組ではほとんど教育の事だけという風になっているので、教育に至るまでの生活の部分の周りのサポートっていうのもあるかと思いますが、その辺も含めた形で変えていただいた方が良くないかなという風に思います。長くなりました。以上です。

委員 今の内容とほとんど一緒だったんですけど特に今、私3月まで福祉の方の相談員の仕事をしていた関係で、特に子育てを支える環境づくりの所に教育だけではなくて先ほどおっしゃった様に生活の部分、それと親御さんを支える仕組みづくりとかそういうのも入れていかないと子どもだけでは育たないので、環境の中に保護者を支えるというか、そこらへんもきちんと入れてほしいなと思っています。

今、片親のご家庭が多いので、もしお母さんと子どもの所は支援が多いんですけど、お父さんと子どもの支援をきちんと考えていただけたら良いかなと思っています。

そういうのを考えた時に施策を進める時に、市役所の中で施策を立ち上げてくれた所とか関係部署との関係づくりというか、全体的な繋がりの方がもう少し私たち素人委員にも分かりやすく見せていただけたら有難いと思うんです。

子育てを支えることも福祉課とどことは、どういう風に進めていくんだという細かい目標を達成するために、どこの部署がどの様に関わっていくかという様な、そういう所までを作って頂けると、これから例えば私がいろんな人から相談を受けた事をこれに則っていった時に、どこに行って話をしてくると進むよ、とかいう事も助言ができるので市役所全体と地域の人たちと、どういう風に進めていくかというのをもう少し具体的に表してくれたら有難いかなと思っています。

それから皆さん先ほどから仰っていますが、聞き取りの部分で私も最初に資料を見た時に聞き取りがどういう風に行われてどんな内容なんだろう、それが私たちの目に触れるというものがどういうものか知りたいなと思っていましたので、もしそういう資料が出来るものでしたら頂けたら有難いかなと思っています。よろしく願います。以上です。

委員 私は福岡からこっちに来たんですが、病院関係で働いていたので、職が見つかり生活する事は出来たんですが、前にやっていた仕事がこちらになければ来るのはちょっと難しかったのかな、それか違う仕事をして家族を支えてるのかなという気持ちがあります。

子どもが高校受験の時、子どもは大分の学校に行きたいと言ってたんですが、地元の学校で頑張してほしいという親の気持ちと、子どもは大分に行きたい、そのいろんな駆け引きがありました。

佐伯の高校に進学したんですが、その子たちが地元の高校で頑張って大学は外に出ても佐伯に戻ってきた時に、仲間が佐伯にいるという時にいざ何かをしようとなった時に、一つの原動力に将来なってくれると思います。

なので佐伯に育つ子どもたちは是非佐伯の高校を出て社会に出てほしい、そして佐伯に戻ってこれる環境を作って、また未来を支えてほしいという気持ちがあります。

P T Aの方でも蒲江の方から高校に行くには交通費がかかる、今は延岡に行った方が多いという状況があって、補助金による支援を市の方をお願いしてるんですがなかなかそこが難しい。蒲江でも佐伯の3校に行きたいと言ってても経済的に無理だと言って…延岡は交通費が出るみたいなので…大学・高校がしてくれてるみたいなので、佐伯に通うよりは宮崎だという事が今の現状です。

今の高校生、佐伯に学校はちゃんとあるんだからそこに行って、未来の佐伯を支えてくれる原動力・仲間を佐伯で作ってほしいというのが気持ちです。

委員 せっかくですから資料(3)の説明をお願いして良いですか。

委員 あまべ商工会と致しましては4役総務委員会を開きまして、その中で佐伯市のまち・ひと・しごとに関する商工業の振興について、商工会としての考え方をまとめ、提案させていただいております。全部で3つありまして、そのうちの1つが小規模事業者経営改善資金、マル経融資に対する支援、これはもうすでに今年の1月ですか、市長、議会の方に要望をしております。なぜこれが必要かといいますとどうしても経営指導員が経営指導するにあたり、その中でいろんな資金が必要となります。それに対して利子補給を全国的にかなり行なわれている地域もあります。今増えておりますので、うちの地域としてもこれに入れば少しでも融資を受けて経営を改善して、事業を拡大していこうという考えの事業主に対する支援を行えるということでの要望をしているのが第1点です。

第2点が国の経済産業省の方に経営発達支援計画というのを提出しております。

これが認められれば、その事業に基づいて経営分析とかを行い、その中でいろんな事業計画作成とか、またそれに基づいて販路拡大とかをやっていくこととなりますので、当然販路拡大に資金がいろいろかかる関係でそれに対する支援を要望しています。

3番目が外国人技能実習生、今、米水津地域で何社かで全部で41人の実習生がおります。

これはハローワークの方に募集をかけても誰も働きに来ないから、こういう策を取ってるのが現状であります。当然、益々外国人の実習生に頼って仕事をやっていく部分が増えてくると思いますので、それに対しては日本語を覚えてもらわないと大変なのでそれに対する講師の先生とかを雇って進めているんですけど、その部分に対しても援助をしてもらいたいというのが現状であります。

実習生は3年間いてもらうんですけど、3年間は住民として登録致しますので、当然人口の増加にも繋がっていく事と思いますので、その辺もよろしくお願い致します。

委員 委員がおっしゃった事で関連がありますので、実際商工会議所・商工会同じ事業をやっていますので、こちらにありますあまべ商工会からの要望事項のマル経融資に対する利子補給、これも同様に共同で要望しております。

それと併せて佐伯市に振興資金ってありまして、そちらの方の保証料の補給も要望の一つに上がっております。これは地元の金融機関さんと連携して金融団さんと一緒の要望になっております。

それと経営発達支援計画に基づく財源措置についても申請検討中なんですけども、こちらの方も同じ様に要望していきたいと考えております。

それと外国人実習生も商工会議所の方でも実習生を受け入れておりますので、併せて同じ様な要望という形を取りたいと思います。

それで先ほどの基本目標の所でありましたけれども、佐伯市の方に人の流れを促す中で移住者数増加とかそういった面で、基本目標の3にあります仕事をつくるという面と、雇用の維持、この辺と関連が深い項目だと思います。

いろいろ取組例とかも挙がってるんですけども、創業支援という事の以前から商工会議所・商工会でも行なっているんですけども、創業とか就業者を増やすという面でプラスの面だけを考えられているんですけども、事業から撤退せずに済む様な施策とか現状の事業で維持できる様な支援策、そういうものが必要でないかと思います。

ですから先ほど言った経営発達支援計画といった経営革新とか、金融支援とかそういった面の支援も今後必要になってくるんじゃないかと考えます。以上です。

委員 今のお話に関連してというか後継者のお話がありましたので。多分今回の目標になっておりますけれども、農業の場合であれば先ほど後継者のマッチングの話がありましたけれども、比較的ここで新規に働かれる方っていうのを目標にしようという事にしてるんですが、元の農家の方の設備を引き継いでされるという様な方も、農業の場合は新規就業者というカウントの仕方になってると思いますので、商工業の方も大体同じような後継者のマッチングとしてK P Iの中に取り入れていけば良いのではないかという風に聞いていました。

前回は申し上げたんですけども、新規の就業者の関係は県の方も力を入れていますし、K P Iもしっかり入っているのが大事な一つの取組だと思っておりますけれども、もう一つ農業の分野でいうと、人口が減少していく中でどうするかとい

う話と絡んでくるかと思うんですけど、地域の農地をどういう風にやっていくのか、どういう形で人口が減少しても農地の中で何かしていくのかという様な人・農地プランなり…資料(5)の中にも少しありますけども農地の中間管理機構の活用ですね、農業をどう守っていくのかの視点も大事になってきますので、こちらの面も基本目標の重要な取組じゃないかという風に思います。農協さんが前、おっしゃられたイチゴの団地の話とか方向性が見えてるものは非常に良い事だと思えますし、新規に就農の方が来られると思うんですけど、もう一方で農地の話っていうのも地域で話し合いをしていかなければいけないんじゃないかなと思います。以上でございます。

委員 連合の佐伯地区協議会の事務局長という立場で参加をさせていただいております。私は労働組合の団体の関係からという事で選出されていると思いますので、労働者の立場という事で話をさせていただく事になろうかと思うんですが、労働組合といっても昔の様に自分たちの利益だけの話をしていてはなくて、社会の情勢だったり商工団体に対する政策について提言等もやっている様な状態で行なっていますので、昔の激しい労働組合のイメージは持たないでいただきたいなという風には思います。

それで結局、連合としましても毎年、佐伯なら佐伯市、県とか各自治体の方に政策制度の要求という形で子育てだったり親の事だったり障がい者に対する事だったり、全般的な要望をしている所です。その中で今回のまち・ひと・しごとの中でいけば当然、人間を消さない様にその為には仕事がないといけない、子育てが充実しないといけないという部分で、核になる部分はその3つになるんだと思うんですけど、まずは子育ては先ほどから話がある様に仕事をしやすい環境という意味であれば、保育所なりお子さんを預けられる施設の充実をやっていただきたいという部分と、当然仕事をしないといけないから子どもを預けるんで仕事をちゃんと親の機会が与えられる様な環境を作っていくかなくてはいけない、難しいとは思いますが、雇用契約の関係とかあるかと思えます。

例えば企業の方っていうのは大変だと思うんですけども、こういう条件で人を雇わないといけませんよとかいう、働いた時はそれなりの保障をしないといけませんよという様な雇用契約がございます。そういうのが整備されていけば当然、労働者の方もそれなりの賃金を頂いて社会保障もされて、子どもも安心して預けて仕事出来るという様な状況になっていくのかなという風に思うんですけども、それはあくまでも理想であって今の佐伯市においてそれが適正にうまくできるのかというと多分難しいんだろうなという風には思います。以上です。

委員 事務局から今日の位置付けは、ここに挙がってるものを絞り込むという主旨のご発言があったんですけども、どうしてもここに列挙されている様な抽象的レベルでは恐らく絞り込めない。つまり、ここで挙がってる事はここにおられる方がご覧になれば、どれも必要であるとは言えても必要でないとは言えない形で挙がってるわけですね。

絞り込む云々といった時に、どこの地域にとっては優先順位は何か、ゼロか百かではなくて順番を付けないといけない。その順番は佐伯市全体では同じではないという事だと思いますので、地域毎の順番をどう付けるのかという事になるのではないかと。

例えば次回で一旦決着を付けないといけないわけですが、委員から仮説で良いのではないのかという、私もその主旨は非常によく分かりますし、ある意味大胆だなと。

しかし、そういうエリアというか一つの柱となる様なものに、むしろ事務局の方で絞っていただかなければ、列挙されているがゆえにどれがいりませんかという尋ね方は非常に難しい選択になっていると思うんです。

もう一つは今、商工会のお二人の方がここに出された資料についての説明があったんですけども、委員からあがってきた意見をどう集約するのかという事についてのご指摘があって、集約するという事との関連ですけど、例えば既存の事業所が廃業したり倒産すれば、それは雇用の確保も何もないんで存続させなければいけないという議論は成り立つと思いますし、しかし他方でこの要望書の中で注目しないといけないのは働き手がない、つまり募集をかけても働き手が来ないから外国人が就労しているといった時に、例えば国が出してるこのパンフの中では、雇用の質とか量という言い方をして、地域の人々が働きに来ない理由は何なのかという事を考えるべきではないのか、という様な指摘があるわけです。

あるいは商工会の中でも恐らく業態というか業種によって全然違う状況なんじゃないのか、という事です。

例えば恐らく旧自治体の役場のそばには、仕出し屋さんがあったりとか印刷所があったりとか、役場があるがゆえにその関係でそこに存続出来ている業態があったのではないかと。

しかしそれらが存続できなくなっているのはまさに、条件が変わったからであってもちろん維持しないといけないというのは分かるんですけど、ただ漫然と維持すれば良いのかという問題も一方で考えないと政策にならないと思うんです。

経営に責任を持っておられる商工業者の皆さんが、個々の経営体について存続すべき要望を出される限りにおいては、恐らくここで議論しようとしている様な事とは直接噛み合わないのはある意味当たり前ではないのか。

これは農林水産業もそうで、個々の経営者が経営に則して何かを求めているという事と、ここで話し合っている抽象度の高いものが第一結びつくはずが絶対ないと思うんです。

その時にここでどんなに頑張ってもシミュレーションしても減少するわけです。減少するという事は市場が縮小するという事であって、それが業態を転換するしか雇用の場合は経営を維持できないという事は、逆に言うとなんという業態に転換し、あるいはなんという風にすれば雇用の損なわずに事業体が違う事業体に変わるのかという事の支援策も、むしろ必要ではないかという議論もあり得ると思うんですけども、そういった議論をする為にも今回ここで具体的な要望書が出て

からこそ、今言った様な事が疑問として話し合う事が出来るわけですが、そういったレベルでの吟味がなければ、話を元に戻すと、これを縮小して絞り込めと言われても、そもそもその材料が多く委員さんの皆さんにないのではないかとこの事だと思います。

ですから次回までに何らかの、先ほど委員から聞き取り調査の結果を知りたいというご指摘がありました。その具体的な聞き取りの中で委員のご指摘にある様に、どう抽象的に方向性を引き出すのかという事を事務局には申し訳ないんですけども、悩んでいただくしかないんじゃないのかなと、その悩み方ですけども最後にもう一度確認ですが、プラン通りにはいかないわけですから、大目標である自然増を目指す・社会増を目指す・人口減少に対応するの3方向に対して、ものすごく大きなざっくりしたものでそれぞれ仮説的で良いと思いますので、そういうレベルで一旦出して10月までは、そこをクリアして3月に向けてより有効性の高いKPIを作っていくという様な段取りではいかがでしょう。

委員 話がずれるかもしれませんが、先ほど子どもさんが大分市内の高校にとか宮崎の方にとかいう様な話がありましたけども、高校で教えている方としましては、佐伯の子が外に出ていくというのは出来れば食い止めていただきたい、10年後と言わずにもう来年でも是非とも。その次に交通費云々の事であれば、どこかの機関がそういった補助をしていただいて、是非とも佐伯の方の学校に来てもらえるようにしてほしいなと思います。

佐伯の子は佐伯で育てたいなというのは私たちの願いでもあります。

いろんな状況で難しいという事は問題はどこがポイントであるという事が分かったら、有効な手立てをもし佐伯市が打てるのであればよろしくお願い致します。

前回から資料のKPIという評価の所が入っているですけども、一つ一つの内容は施策とか取組例とか見て、私の考えが及ばない所もあって、なかなかはっきりした事は言えないんですけども、ちょっと気になった所が11ページのKPIという所でここだけ%で書かれているんです。後の所は実人数の変化で目標が達成できたかを調べている様ですけども、%の怖い所は誰に聞いたかという所が一番怖い所で、一番良いのは平成23年度に聞いた人と平成31年度に聞いた人が同じ人に聞いたとか、もしくは同じ年代層に聞いてるとか、でないとなんか単純に8年後ですので、例えばずっと佐伯に住みたいですかと聞いて8年経ったら同じ人に聞いて8年分高齢化して人口減って、自然に%上がるはずですのでそういうのではなくて、本当に皆さんが住みたいと感じている変化があったという風に言うのであれば、聞いているサンプルになる層を絞っているのだと思うんですけど、明確にここに出ていると良いのかなという風には思いました。

前回住みたいと答えた人のうち何%が答えているのか、前回聞いてなかった人を入れると何%であるとか、将来性豊かな街だと23年に感じた人のうち31年にも感じている人はどれ位いて、前回聞けなかった人を入れると今回は何%とか、そ

ういう風な%で割合で評価する場合は、そこら細かい所があると良いのかなという風に思いました。以上です。

委員 8ページに佐伯市に人の流れを促すという事で、私は出身が米水津なんです。地元の私の近所に空き家がどんどん増えているんですけど、反対に定年退職を迎えて帰ってこられる方もたくさんいます。

そういう方が正直申し上げますと、私ども地域の地区の役員の半分以上を占めているという形で、なぜ彼らが帰ってくるのかというのは、先ほどからのご意見にもあります様に、やはり愛着があるんです。地元の愛というのがあって、幼い頃から学生時代に過ごした米水津の地が忘れられないと。定年退職を迎えたら必ず帰ってくるという事で、帰ってきております。そうしたことから、魅力ある地域にする為には文化活動等々もありますけど、私が一つ感じるのはいろいろな地域の祭、盆踊りとかは話を聞くと佐伯市の盆踊りがどんどん廃れていって去年まであったけど今年は無いとか、そういう地域もあると聞いております。ただ私どもの地域はずっと毎年盆踊りをやるわけですけども、盆踊り太鼓の保存会というのがあって、子どもに太鼓を叩かせるんです。子どもが太鼓を叩くと盆踊りが賑やかくなって学生が大学を出て卒業していっても、盆には必ず帰ってきて太鼓を叩こうとするわけです。中には毎年帰ってきて、必ず盆には帰ってこないといけないという位、地元のそういった活動、小さい頃に体験した事が忘れられないという魅力が地元にあるのかなという事で考えております。

ただ私どもの盆踊りも音頭取りが80歳以上の人しかいなくなって、これは大変だという事で音頭取るんですけど後継者がいないので、小学生・中学生を対象とした音頭取りを今回作ろうかという風に考えております。そうすることで、また祭が盛り上がるのかなと考えております。

先ほど意見にもありましたけど、佐伯地域ではあちらこちらで祭があるんですけど、もともと祭が出来たのは外部から人に来てもらおうという事で始めたんじゃないかと思うんですけど、結局地元の人間が楽しめないで祭って廃れるんです。

だから祭をするというのは自分たちが楽しむというのが大前提にあって、私は延岡の神輿を担ぐ夏祭に参加した事があるんですけど、彼らが祭に出るから地元を離れたくないという事は、祭が相当な魅力になっているという事から考えれば、魅力ある文化活動、そういうのを行なっていただきたいという様に思います。

最後に1点、この会議とは関係あるかどうか分からないですけど、申し上げたいのは毎年12月に地区対抗の駅伝大会というのがこの地域であります。それで、ルールが毎年少しずつ改善されるんですけど、今月の30日最終的な監督会議があると聞いたんですけど、その中で私が信じられない事があったんです。その点だけ申し上げますと、地域に住んでる人間じゃないと選手として出られないという様なルールがまた新たに作ったと聞きました。実を言うと大分県が駅伝の

県でありまして、大分県内一周駅伝があって、それは出身中学校でその中学を出れば県外に出ても選手として出られるわけです。

どういう事かと言うと東京に行っても大阪に行っても神戸に行っても県内一周駅伝があったら、地元の為に自分が帰ってきて走るんだと、そういう意識があるんですけど、佐伯が何故かそういうルールを作ろうとしていると聞いたので、この駅伝は何が目的なのかなと。先ほどから佐伯の魅力というのをよく話し合いされていますけど、魅力がある街というのは何かいざという時に若者が帰ってこられるのが目的であって、この駅伝の目的というのはそこが一つの大きな目的じゃないかなと思うんで、競い合う事も大事ですけど、佐伯の魅力を発揮する為には是非この月末にあるという監督会議、職員の皆さんもいらっしゃいますので出身中学で出走できるという県内一周駅伝と同じ様なルールで佐伯の駅伝をやっていたらなという風に思います。話がずれましたが以上です。

委員 先ほどからK P I、かなりお話が出ていると思うんですけども、製造業もよくK P Iという言葉を使います。製造業のK P Iはとても簡単です。

Q C Dです。うちの会社の事を言って申し訳ないんですけども、Q C DのK P Iというのは実は私は一日3回確認します。それ位重要な指数であるという事です。

という所で、この会議に出てK P I一年というタイム感を凄くゆっくりだなと感じます。先ほど委員もおっしゃられたと思うんですけど、P D C Aを回す上ではとても重要な指数になってくると思いますので、大変難しいと思うんです。難しい内容も多いと思うんですけども、これからまだ決まってないという事であれば、もし可能であれば月次で見れるものというK P Iも中には出てくるんじゃないかなと思いますので、1年間で1回だけのK P Iになるとその1年の評価になってしまいますので、例えば1か月に1回ずつサンプルが取れるK P Iであれば取っていただければ、年の推移が見れるので人の流れが見れるのかなと思います。それを見ながらP D C Aサイクルを回すとより効果的な施策が出来るんじゃないかなと思います。

また、聞き取り調査という所がありましたけれども会長には確認致しますけれども70社位いまして、U J Iターンをされている方、また海外の人材もかなり各国から雇用しておりますので、事務局の方で必要なサンプルがあるんでしたら、絞った内容で聞き取り調査は可能だと思いますので、より良いサンプル集めという所でご協力出来るかと思っておりますので声をかけていただければ私の方から会長の方に話を通しますので、何かあればご相談ください。

会長 ありがとうございます。

事務局 皆さま、本日は非常に多様な視点からご意見を頂きまして、ありがとうございます。まさに私どもの力不足が露呈した様な感じで、気持ち的にはかなりの部分で仕切り直しも必要じゃないかと考えております。

その中でお答えできる事につきましては、いくつか回答になるかどうかという事は別にしましてコメント的にお話をさせていただきたいと思います。

委員の、仮説といいますかそういう視点というのは目からうろこが落ちる様な思いが致しました。大胆にという事と、地域別に優先順位を付けた施策をという視点という事については振り返ってみたいと思います。ありがとうございました。

それから前回話された部分について、どう反映されているのかという事につきましては、私どもも検討して中に盛り込む様な事については考えております。

文言として出来ていない特にツーリズム重点戦略との整合性については次回を含めて関係課、特に観光課と対応致したいと思いますが、ただ冒頭に事務局の方からも申し上げた通り総花的過ぎるという批判といいますか意見が市役所の内外から寄せられておまして、その所でどこまでを網羅的に記載するのかどうかという所につきましては結果として悩んだ所でありますので、その辺も委員のお話も含めて盛り込む内容かどうなのかという所も、もう一回フィルターにかけて検討したいと思います。答えになっていない様なお話ですけども、そういう事があります。

取組の事例とかその前の施策について、いろんな分野別・項目別に挙げている部分が市役所のどの担当課なのかという様なお話でありました。計画の中に担当課がどこだとか担当部がどこだとかいうのを書きこむ事が出来るかどうかというのは、戦略の性格上ちょっと難しい所もありそうだなという所はありますけれども、何らかの形で戦略とは別の形になるかもしれませんけれども、そういう様な市役所の部署的なものとの連動というのは考えてみたいと思います。ありがとうございました。

それから委員の方から具体的な施策への予算的な支援というお話がございましたが、この辺につきましては要望として承らせていただきます。

お話にもありましたけれども、戦略の中に方向性としては盛り込む事が出来る出来ないという議論にはなりましようけれども、要望は承るという事で具体的な踏み込みという所までは今回の10月までの戦略については、ちょっと難しいのかなという感じがしました。中身については受け止めさせていただきます。

地区対抗駅伝の事については、全く同感でございます。私も選手で走った事もありまして木立の選手選考とかチームづくりにも苦慮した事もありますし、地域を愛する心とか気持ちという様な所で繋がっているという事は全く同感でございます。担当課にこういう意見をいただいたという事を伝えたいと考えております。

まだ他にもいろいろとお話申し上げたい所がありますけれども、記録にも取っております。皆さまのいろんな意見、今日は重いものを改めて背負ったという様な気持ちでございます。

まとめにはなりませんけれども、もう一度スタートを切りまして、来月の中旬にある第4回の審議会にご提示をしたいと思います。

最後に地域の方に出向いて意見を市の方が伺っているという事の中身について知りたいというご意見でございました。今、取りまとめ中でございます。

形はどういう事になるかというのは、まだはっきり致しませんけれども、何らかの形で皆様方にご披露出来ればと考えております。

最後に事務連絡的な話になりますけれども、次回、第4回は10月19日13:30から6階の第1委員会室そちらで開催を致します。

よろしくお願い致します。以上です。

委員 最後の一つ。次回の会議は皆さん貴重なご意見をお持ちだと思うので、必ずご意見をいただく様に、時間を過ぎてもやっていただきたいと思います。

時間が限られているというのもありますけど、是非お願いします。

9 会議の資料名一覧

(1) 今後の推進審議会開催（案）

(2) 佐伯市まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要（案）

(3) 佐伯市まち・ひと・しごと創生総合戦略「商工業の振興」における

佐伯市あまべ商工会の施策について要望（佐伯市あまべ商工会 提出資料）

(4) 平成27年度第2回佐伯市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進審議会抄録

(5) 青山地区の将来に向けて

10 問い合わせ先

担当課 総合政策部 秘書政策課 政策推進係

電話番号 22-4104 内線 586